



学校だより



墨田区立第三吾嬬小学校

校長 川中子登志雄

令和7年9月1日

9月号

「橋をかける 子供時代の読書の思い出」

川中子 登志雄



子供の頃の夏の思い出の一つ「ツクササ」

戦後80年目を迎えた今年の夏も、暑い暑い夏となりました。せっかくの夏休み、元気に外で遊ぶこともできなくなった今の子供たちが気の毒でありませんが、それでもきっと、普段できない様々な経験をして、一回り大きく成長した子供たちに会えるのを楽しみにしていました。保護者や地域の皆様もお変わりございませんでしょうか。

私はこの夏はどこに出かけることもなく、自宅でのんびり過ごしました。戦後80年を祈念する数々の特別番組を見たり、何度か料理に挑戦したりしていました。

今年はどこにも出かける予定だったので、読みたいと思っていた本をしっかり読もうという目標を立てていました

が、夏休み中に予定していたすべての本を読み終えることはできませんでした。

この夏何冊か読んだ本の中に、当時皇后陛下だった美智子上皇后が、1998年9月21日にインドのニューデリーで開催された国際児童図書評議会・第26回世界大会でなされた基調講演を収録した「橋をかける 子供時代の読書の思い出」(すえもりブックス)があります。私は、美智子上皇后について、詳しいことは何も知らなかったのですが、以前読んだ黒柳徹子さんの本(「小さいときから考えてきたこと」(新潮文庫))の中で紹介されていたのを思い出して、たまたま家の本棚に並んでいた古い本を開いてみました。この本は、自分で買ったものではなく、確か、私が母親からもらったものだったと記憶しています。(今、当時の記録を調べてみると、このときの美智子さまのスピーチは大変素晴らしく、世界中から集まった参加者に感動を与えたものだったそうで、NHKは特別に収録した日本語版と英語版の映像を放映し、日本中で大変な話題になったそうです。私も本を読んだ後、ネット上に残されている映像を拝見しましたが、まさにクィーンズ・イングリッシュの格調高く、感動的なスピーチには、大変深い感銘を受けました。)

この講演の中で、美智子さまは自分の戦前・戦中の子供時代に出合った本に触れながら、読書が自分という人間をいかに形成していったかを、深い洞察をもって語られています。そして、最後にこう話されました。(前掲書より抜粋)

「今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょうか。／何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る、青年期の読書のための基礎を作ってくれました。／それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。／読書は私に、悲しみや喜びにつき、思い巡らす機会を与えてくれました。本の中には、さまざまな悲しみが描かれており、私が、自分以外の人がどれほど深くものを感じ、どれだけ多く傷ついているかを気づかされたのは、本を読むことによってでした。」

(本講演は、宮内庁のホームページに全文が掲載されています。 <https://www.kunaicho.go.jp/okotoba/01/ibby/koen-h10sk-newdelhi.html>)

本校の教育目標に「共生 思いやりをもち、共に生きる人」があります。私はこれまでも何度もお話ししてまいりましたが、「思いやり (empathy)」というのは、生まれつきもっているものではなく、学んで身に付けることができるスキルです。美智子さまがお話しになったとおり、読書は私たちが「思いやり」というスキルを身に付け、磨くための最善の方法です。

ちなみに、6年生の全国学力調査の結果は左表のとおり、ほぼ全国平均程度でした。

〈お知らせ〉

個人面談（１回目）のお知らせ

6月号でもお伝えしましたとおり、本校は子供たちの良さを見取り、最大限に伸ばすために、本年度から通知表による総括的評価を廃止いたしました。代わりに、普段のお子さんの学習状況や学校での生活状況について保護者の皆様にお伝えするために、前後期末に、全家庭の個人面談を実施いたします。本日、別に第1回目の個人面談についてのお知らせを配付しますが、9月29日～10月3日までの五日間の午後、各家庭15分で面談を行います。短時間ではございますが、学校と家庭がともにお子さんの良さを伸ばすための、有意義な時間としたいと考えております。お忙しいところではございますが、ご協力よろしくお願いいたします。



放課後の忘れ物について

生活指導部

放課後に忘れ物を取りに学校へ戻ってくる児童が増えております。本校では、児童の安全を守るため、また持ち物への意識を高めるために、「下校後は忘れ物を取りに来ない。」というきまりを設けております。児童に向けては、7月に各学級で指導しています。

忘れ物を防ぐためには、帰りの準備を丁寧に確認する習慣が大切です。ご家庭でも、お子様への声かけをしていただけますと幸いです。



今年度のリレーは、学年代表による色別対抗に！

体育的行事部

今年度の運動会における低学年・高学年リレーの選手は、以下の通り選出いたします。

昨年度：各クラス上位の男女各2名を選出 学年で男女各6名の計12名

今年度：学年全体で上位の男女各9名を選出 計18名

学級対抗にならないように、学年から代表を選出し、新たにチーム分けを行います。これによって学年全体で切磋琢磨することで子供たちの競技力向上につなげ、クラスによる人数差や競技力の偏りをなくして公平に選考し、学年の代表として出場する意識を高め、選手にも、応援する児童にもより大きな達成感を味わわせることをねらいとしています。

引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

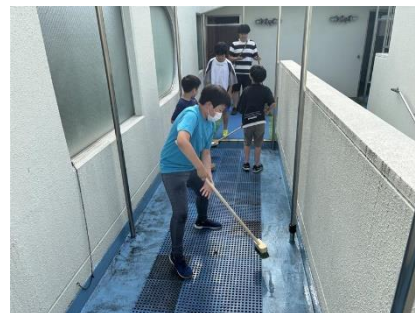


委員会活動の様子

特別活動部

4月から始まった委員会活動も、早いもので数ヶ月が経ちました。5・6年生の子供たちは、それぞれの委員会で、学校生活をよりよくするための工夫や企画を自分たちの手で進めています。今年度も、「児童の主体性の育成」を教育活動の柱の一つとして掲げ、委員会活動をその実践の場と捉えています。

日々の常時活動に加え、月ごとの企画・提案では、子供たちが自らアイデアを出し合い、計画を立て、役割分担をしながら取り組む姿が見られました。時にはうまくいかないこともあります。その経験こそが子供たちの学びにつながっています。後期の活動では、これまでの経験を生かし、さらに自分たちの力で委員会を動かしていけるよう、支援していきたいと考えています。



夏季水泳の様子

体育的行事部

今年度も、子供たちが楽しみにしていた夏季水泳を実施しました。連日暑い日が続く中でも、子供たちは元気いっぱいプールに入り、仲間と一緒に水の感触を楽しみながら取り組む姿が見られました。それぞれの目標に向かって一生懸命に取り組む姿がとても印象的でした。安全に気を配りながら、楽しく充実した時間を過ごすことができました。この経験が、子供たちの自信や次への意欲につながっていくことを願っています。



学校だより・学年だより 10月号より、統合いたします

これまで各学年で発行していた「学年だより」の内容を、今後は「学校だより」の中に【学年からのお知らせ】として掲載いたします。これに伴い、これまで毎月24日に発行していた「学年だより」は廃止し、**毎月1日**に発行する「学校だより」に統合されます。（月行事予定表については、これまで通り24日に発行します。）

保護者の皆様には、学校全体の様子とともに、各学年の取組や予定を一度にご確認いただけるようになります。

今後も、子供たちの成長のために、どうぞよろしくお願いいたします。

